

平成29年産 コメ通信

第3号（平成29年5月8日）

【発行】
北秋田地域振興局農林部農業振興普及課
（電話0186-62-1835）

的確な除草剤散布から斑点米防止を！

1 気象と生育・作業状況

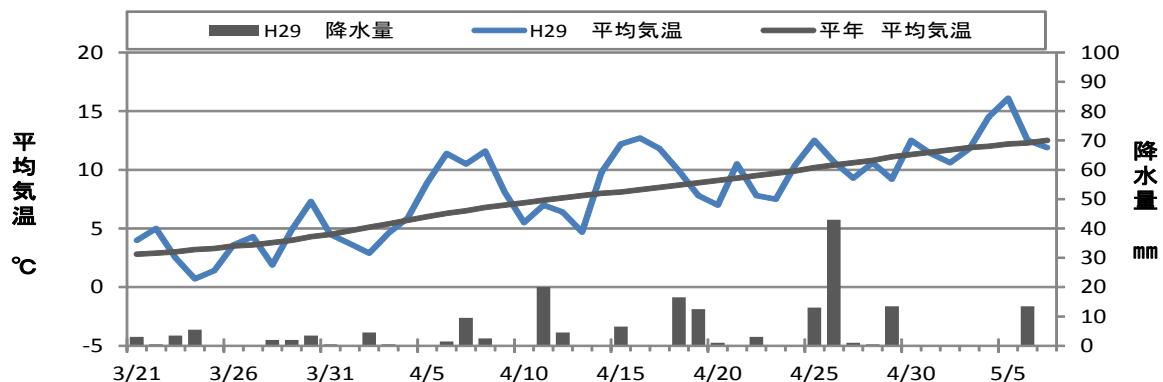


図1 気温の経過（アメダスポイント：鷹巣）

- 気温は、4月下旬に低い日がありましたが、育苗期間をとおして概ね平年並に経過しました。
- 出芽揃いは、概ね良好で苗の生育は順調でしたが、一部では苗立枯病の発生が見られました。
- 4月の降水量は平年より多く、耕起作業は昨年より遅れましたが、5月の好天により作業が進み、盛期は平年より2日早い5月4日となりました。

2 田植えとその後の管理

【田植えから活着まで】

- 田植えは、日平均気温14℃以上で、最高気温20℃以上の温暖な日に行います。低温や強風下で田植えをすると植え傷みが大きく、その後の活着不良や初期生育の遅れにつながるため、悪天候下での無理な田植えは行わないようにします。
- 田植え後の苗は、通常4～5日で活着します。活着を促進するため、水深4cm程度の湛水状態を保ち保温効果を高めます。

【活着後から】

- 活着後、分けつの発生を促進するためには、水温の日較差を大きくすることが重要です。
- 水温の日較差を大きくするため、かん水サイクルは「朝に水を入れる→日中は止水（水温上昇）」で行います。なお、日中のかん水は、水温が低下するため行わないようにします。
- 用水温の低いほ場では、ポリチューブなどを用いて水温上昇に努めます。

【雑草防除】

- 雑草の草種および発生量に応じた除草剤の選択と的確な使用により、雑草の防除効果を高めます。

- 一発処理除草剤を単用する場合は、代かきから10日後までを目安に散布します。ノビエは代かき後14日前後で2葉期に達し、ホタルイは代かき後10日前後で2葉期に達していることから(H28農業振興普及課調べ)、散布が遅れないよう注意します。
- 除草剤散布時の水深は、粒剤では3～5cm、フロアブル剤やジャンボ剤、豆つぶ剤等では5～7cmとし、薬剤が拡散しやすいように水深を確保します。
- 除草剤散布後7日間は止水とし、排水路への落水やかけ流しはしません。田面が露出すると効果が低下するため、水が少なくなってきたらゆっくりとかん水します。
- 水田周辺の水系など環境への影響に配慮し、移植前の初期剤の使用は極力避けてください。やむを得ず移植前に使用する場合、使用時期は移植7日前までとなります。

3 本田のいもち病防除対策

【薬剤による葉いもち防除】

- 葉いもち防除剤は、箱施用剤、側条施用剤、水面施用剤のいずれかを使用します。
- 水稲育苗終了後のハウスに野菜類を作付けする予定があり、箱施用剤を移植前～当日に使用する場合は、育苗ハウスの外で薬剤を使用してください。
- 箱施用剤の25g処理は、使用箱数が20枚/10a以上の場合とします。
- 農薬使用にあたっては、ラベルをよく読み、使用基準を確認してください。
- Q・i剤(嵐剤等)は、耐性菌が確認されているため、使用しないでください。

種類	薬剤名(農薬成分回数)	使用時期 ^{※1}	使用量
箱施用剤	ブイゲット箱粒剤 (1)	緑化期～移植当日	50g/箱
	デジタルコラトップアクタラ箱粒剤 (2)	移植3日前～移植当日	50g/箱
	ルーチンフロアブル (1)		100倍(500ml)/箱
	Dr.オリゼ箱粒剤 ^{※2} (1)		
	ルーチン粒剤 ^{※3} (1)	床土混和又は播種時(覆土前)～移植当日	25～50g/箱
側条施用剤	側条オリゼメート顆粒水和剤 ^{※4} (1)	移植時	ペースト肥料混和用 250g/10a
	ツインターボ顆粒水和剤 (2)		100g/10a
	コープガードD12 (1)	粒状肥料	20～50kg/10a
	コープガードW12 (2)		
	コープガードD一発664 (1)		40～50kg/10a
水面施用剤	オリゼメート粒剤 (1)	6月15日頃(6/12～18)	2kg/10a

- ※1：各剤とも、殺虫剤との混合剤については、剤により使用時期が異なるため注意する。
- ※2：プリンス剤との混合剤の使用量は25～50g/箱、他の殺虫剤との混合剤は50g/箱である。
- ※3：各種殺虫剤との混合剤については、使用量は50g/箱である。
- ※4：側条オリゼメートフェルテラ顆粒水和剤の使用量は500g/10aである。

【耕種的防除】

- ほ場に放置された補植用の余り苗は、葉いもちの強力な伝染源になるため、補植終了後は、水田の泥の中に埋めるなどして完全に処分してください。
- 乾燥状態で越冬した稲わら・籾殻は、葉いもちの伝染源となるので、ほ場周辺に放置しないでください。なお、敷わらを使用した野菜ほ場の周辺では、葉いもちの早期発生に注意してください。

問い合わせはJ A、または農業振興普及課まで
 HPは「北秋田 コメ通信」で [検索](#) ～次回発行は6月中旬予定～